


東京医科大学看護専門学校同窓会

同窓会便り

第29号

発行者
東京医科大学看護専門学校同窓会
〒160-8402 新宿区新宿6-1-1
TEL 03-3351-6141(内310)
印刷  同窓会事務局
発行日 2014年2月20日
(年1回発行)



北海道 美瑛

Topic

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

50周年記念式典・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～5

新役員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～7

戴帽式・近況・15回生同窓会・・・・・・・・ 8～9

東医祭・懐かしいあの店・・・・・・・・・・ 10～11

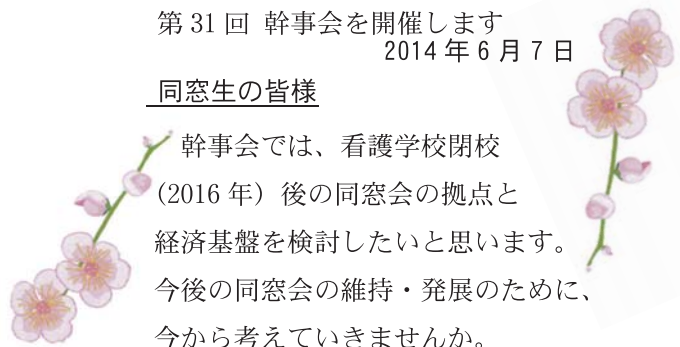
同封物の見方・編集後記・・・・・・・・・・ 12

第31回 幹事会を開催します
2014年6月7日

同窓生の皆様

幹事会では、看護学校閉校
(2016年)後の同窓会の拠点と
経済基盤を検討したいと思います。
今後の同窓会の維持・発展のために、
今から考えていきませんか。
ぜひ、ご意見をお寄せ下さい。

(幹事・役員名は別紙参照)





会長挨拶

同窓会会長 有本 キヨ子（3回生）

同窓生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。

私たちの母校は第50回生が入学し、50周年を迎えました。祝う気持ちをもつ一方で、50回生の卒業をもって閉校することを受け止めることとなります。少々複雑な思いを持たざるを得ませんが、看護学科が新設され89名の新入生を迎えることができ、新たな教育の場が展開して50年の歴史が繋がっていく希望につながります。同窓会は、直接なにかができるわけではありませんが、関心を持ち続け

て見守っていきたいと思います。

このような中、東医祭に久しぶりにバザーを出店しました。献品のお願いは無理のないところになりました。参加することで同窓会をアピールし、学生たちと交流することを目標に実施しました。私にとっては約30年ぶりのバザー出店です。あの頃とは環境が違う東医祭でしたが、医学生・看学生・看学科生が等しく交じり合い、楽しんでいる光景はとても新鮮でした。

Anniversary 50th 50周年記念式典



峰村副学校長



中野看護部長



山科学学校長



上杉先生
(中村)

加口先生
(山田)

福岡先生

杉浦先生

黒坂先生
(石塚)

友田先生

※会場内照明の関係上写真の色味が不自然になっています。

Anniversary 50th

50周年祝賀会



17回生、バンザイ!!



14回生
来年、同窓会をすることになりました。



団結力のある18回生。今日も一番の大人数です!



19回生、頑張っまーす!



23回生：卒業してから初めて会いました。感動しています。
同窓会をやりたくなりました。



27回生



31回生



在校生
先輩方と会う機会がないので、貴重な体験となりました。



進学科 5回生
30年ぶりに深石先生にお会いできて、よかったです！



1. 2. 3回生
劣等生3人組もいます。健康で長生きして頑張ります



11回生
これからも若さを保って頑張っていきます。



花の8回生、元気でーす！



素敵なお土産を頂きました。
懐かしい学生時代の写真！
みなさんいい顔しています！



福岡先生：「とても楽しかったです。
福岡から出てきた甲斐がありました。」

<政治学者：舛添要一先生のご講演から思うこと>

舛添先生は、お母様の介護のお話や介護を行う中で介護を変えたいという思いから政治に入ることになったそうです。厚労相のときのエピソードをはじめ、多くの楽しいお話をして下さいました。

その中で、医療者各々が、それぞれの役割に専念できるチーム医療を目指していく事が大切と先生は話していました。そのためには、地域医療との連携、保育所含めフレキシブルな働きができるような環境整備が病院に求められるそうです。

医療に100%の力を出すには120%の戦力が大切であり、人員の確保が求められます。人員にゆとりがあれば、医療全体の資質の向上につながります。私たちは質の高い医療を提供できるように精進していくことが求められています。今後は高齢化社会を見据え、医療費削減に向けて予防医学に注目していく必要があるなど、私たちに多くの提言をして下さいました。私たちは、医療・看護の質の向上を目指し、日々研鑽していく必要があります。東京医科大学看護専門学校で学んだことを忘れずに、看護と向き合っていこうと思います。



(大島久美)

看護専門学校五十周年誌を発刊して

東京医科大学看護専門学校 教務主任 石塚 睦子 12 回生

平成25年、東京医科大学看護専門学校は、4月に入学した50回生をもって学生募集を停止し、50回生が卒業する平成28年3月で閉校することになりました。そして、新たに医学部看護学科が大学敷地内に開設され、今年第1回生が入学してきました。東京医科大学における看護基礎教育は大きな変革期を迎えたこととなります。半世紀続いてきた看護専門学校の歴史に幕が降りることは、私達同窓生にとってとても寂しいことであり、50年間のそれぞれの時代の記憶を辿り、昭和39年東京オリンピックの年に学校が誕生した時からの資料や様々な思い出を写真とともに残しておきたいと切に思いました。

そこで、これまでの記念誌には含まれていなかった看護専門学校草創期の思い出、カリキュラムの変遷、同窓会、入試、国試、図書室、寮生活、自治会・科目外活動、ユニフォームのことなどを含め、看護科（本科）・別科・進学科の同窓生には全ての回生から歴任教職員の皆様、関係者の皆様にも多数執筆頂きました。ご協力頂いた皆様方に編集委員（河津、黒坂、有本、竹内、阿部、峰村、石塚）一同心から感謝申し上げます。

且つ今回は、住所の判明している同窓生の全員と在校生の全員に記念誌を渡せるようにしたいと思い、大学本部の皆様にご理解頂き、実現することができました。

また、記念誌には、本校の前身として、昭和32年開設の東京医科大学病院附属准看護婦学校が第7回生までを社会に送り出していたことも、章立てをし

写真を載せました。准看護婦学校閉校の頃には、当時の教職員の方々が高等看護専門学校の開設に向けてご尽力されたことも改めて感じることができました。尚、東京医科大学八十周年誌を調べたところ、准看護婦学校の開設より更に以前の昭和21年5月（東京医学専門学校が東京医科大学として認可された年）、大久保キャンパス内（現大学構内）に東京女子保健学院が開設され、学院長は当時の医学部学長先生が兼任され、昭和26年には閉鎖されたことが記載されていました。残念ながら、東京女子保健学院は短い命で幕を閉じ、准看護婦学校の開設までに空白期間もあり、その歴史について調べることはできませんでした。

また、五十周年誌の巻頭には、「日月」の書が、そして、章の始まりに植物画の挿絵が入っています。これは、高等看護学校1回生の時から教員として勤務された川口よねこ先生がご提供下さったものです。『日月』の書は、本校で学んだ私達同窓生にとって、50年の歴史、月日の流れを思い起こさせ、何かを語りかけてくるかの様でした。

東京医科大学看護専門学校は間もなく終わりを迎えようとしています。今後は4年制の看護学科として、益々学生達の教育環境が充実し、質の高い看護教育が行われていくことを願ってペンを置きたいと思えます。

川口よねこ先生による



創立50周年に参加して

北村（田川）加代子 4回生

卒業して早43年が経ちました。10月の50周年の同窓会に日帰りで行きました。お世話になった懐かしい先生方、先輩、後輩のお元氣な姿に接することができました。特に上杉先生、福岡先生には直接お話し出来て瞬く間にあの頃に戻りました。卒業のあと看護学校にはなにかと足を運び学生気分でも何でも相談していました。特に褒められることの少なかった私ですが、現場を経験してからの進学について福岡先生に褒めて戴いたのはその後の保健師として助産師として働き続ける際の支えになりました。富山に帰ってきてからは送られてくる同窓会誌

で皆様のご活躍を拝見するのが楽しみでした。

今は35年の看護師としての生活に区切りをつけ、独り暮らしの認知症の母を毎日訪ねて何とか自立した生活を支援しています。他には10年前より老後の楽しみにと思い俳句の会に入って楽しんだり苦しんだりしています。一年に一度全国大会が東京であります。11月に行ってきました。そして昨日は世界遺産の五箇山で吟行会があり寒中俳句作りを楽しんできました。

冬ぬくし男給仕の五箇の宿

皆様も機会があれば是非富山にお出かけ下さい。

新役員紹介

同窓会役員に就任しました

難波 奈保子 31回生

2013年6月より同窓会役員をさせていただくことになりました31回生 難波(旧姓長田)です。卒業後、本院で勤務してまいりましたが、2013年度より看護専門学校で教員をさせていただいております。これを機に同窓会運営に携わらせていただくことになりました。おもに学校行事や学校の動きをお伝えしたり、卒業生を同窓会へ迎え入れる準備をしたりと、将来の同窓生との橋渡しの役割をさせていただいております。看護専門学校は4月に最後の入学生を迎え、形をかえて看護学科が創設されました。皆さまのご意見をお聞きしつつ役員で協力しながら、同窓生

のつながりの場を充実させていきたいと思えます。

気分転換に始めたアーチェリー。なんだか筋はいいようで、褒められ調子に乗り試合なんかも出ています。7年後に東京オリンピックが決まりましたね。明るい話題で今から待ち遠しいです♪



右から3人目

卒業後16年経ちましたが

工藤 ちひろ 32回生

同窓会のみなさま、32回生のみなさま、今年度より同窓会の役員をさせていただくことになりました工藤です。よろしくおねがいたします。私は東医に就職してからずっと産科病棟で勤務しています。気づいたら、病院に残っている同期は私を含めて2人になっ

てしまいました。それでも、同級生の活躍はいろいろと伝わってきています。他の病院で頑張っている方、訪問看護を行っている方、看護教員になった方、別の分野で教室を主宰している方、お母さんになって子育てを頑張っている方、それぞれの活躍を見聞きするたびに、私の励みにもなっています。これからもお互い、がんばっていきましょう。また機会を作ってみなさんに会えたら嬉しいです。

就任

25回生の皆さま お元気ですか？

宮崎 留美子 25回生

25回生の皆さまお元気ですか？ご無沙汰しております。1991年に卒業し、はや23年目となります。私は卒業後東京医科大学病院に就職し、現在は異動部署4か所目の13階西病棟で勤務しています。これほど長い期間、勤務を継続できたのも、各部署で素敵な上司や同僚と出会い、看護師として成長する学習テーマを見つけることができたからだと思えます。2011年には摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を取得し、病棟外でも嚥下外来やNST※の一員として院内で横断的な活動を行っています。今年度、新しい部署で看護師長となり、責任の重圧もあります

が、新たな役割を楽しんでいます。さらに、私が先輩方に支えられたように、多くのスタッフが看護の楽しさを実感し、成長できるよう取り組んでいきたいと強く感じています。プライベートでは皆様に報告することがなく残念ですが、家族・愛犬との生活の中で小さなことでも楽しめる環境と健康であることに感謝しています。皆様とお会いできる日を楽しみにし、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

※NST
栄養サポートチーム



主任就任にあたり

滝澤 桂 28回生

28回生のみなさま、お元気でしょうか。卒業して20年が経過しようとしています。

卒業して28回生のほとんどは本院に就職したと思いましたが、現在は石田、久保田、末吉(旧姓 山中)、私の4名だけとなってしまいました。部署はバラバラですが、各々がそれぞれの部署で頑張っています。

私は、とりあえず頑張れるだけやってみよ

うと救命センターに入職してから、結局救急を離れられず、2005年には救急看護認定看護師の資格を取得しました。長年救命センターに勤務していましたが、1年半前に異動し、現在は1, 2次救急を中心に勤務しています。救命センターでたくさんのお話を習得したつもりでしたが、異動したことで新たな発見ができ益々救急の楽しさを感じて働いています。今年4月からは主任となる機会をい

ただきたくさんの方々の指導や助言をいただきながら業務をこなしています。まだまだ勉強しなければならないことが山積みと実感する日々です。



教育担当主任となって

野木 雅代 31 回生

東京医科大学看護専門学校31回生の皆様、お元気でしょうか？卒業後15年という日々はあっという間でしたが、皆様の環境も大きく変わられたことと思います。私は、一度の退職を経験後、アメリカ留学を経て平成18年に東京医科大学病院8階病棟へ復職しました。久しぶりに戻った臨床現場では、2度目の新人看護師の気持ちを体験しながら多くの学びがありました。日々の看護実践には達成感を感じていましたが、系統的に学ぶことをせずスタッフ教育に関わることへの恐怖感がありました。今までの行進指導は、自己の体験を想起しながら経験的に行っていたため、達成感と不全感を繰り返していました。しかし、看護の素晴らしさを言語化し次世代へ伝えたい、そのような思いから大学院進学を決心し、新人看護師の看護実践能力の発展をテーマとして教育のあり方を追究しました。教

育は看護と同様に対象を追体験できる能力が求められ、新人看護師を支援する際には、まずは自己の看護実践能力の向上が重要となることを学びました。

昨年度より教育担当専従を拝任し、今年度からは主任として103名の新人看護師を支援しています。日本全国から集まる新人看護師はとても個性豊かで、固くなった頭を柔軟にする必要があると日々痛感しています。まずは相手に興味を持つことから始め、入職後3ヶ月間で全員の名前や卒業校、出身地や趣味まで頭にインプットできるようになりました。病棟ラウンドを重ねて行くと、新人看護師の顔つきがプロの看護師としての表情へと変化し、自己に向けていた意識が患者に向くようになる姿を見るたびに現場スタッフの方々の関わりがいかにか重要かを感じています。今後も、病棟の外側にいるから支援できること、病棟の中の人でないといけないことを把握しながら「協働」を念頭に、諸先輩方のアドバイスをいただきながら、「温かな心のこもった看護」が実践できる看護師の育成に励んで行こうと考えております。



緩和ケア認定看護師としての活動

武石（山口）葉月 36 回生

私は11年前に卒業後、東京医科大学病院で勤務しています。就職当時、血液内科・呼吸器内科の病棟に配属となり、骨髄移植、抗がん剤での治療を行う患者さんと多く関わってきました。最初は業務を覚えること、こなすことに精一杯でしたが、入退院を繰り返しながら長期にわたり治療を続けている患者さんが治療の継続や生活できるように支援するにはどんな看護が必要だろうと考えながら様々な患者さんとの出会いもあり、仕事にやりがいや楽しさを感じるようになりました。病棟では最期を迎える患者さんも多く治療期から終末期と呼ばれる患者さんも多く、痛みなどの身体症状から精神的なケア、家族のケ

ア等をもっと勉強して、実践に役立てたいと感じるようになりました。看護学生の時、「緩和ケア」という言葉を聞き興味を持って本を読んだりしたこともあり、3年前に緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。取得後は病棟勤務を経て、5年前より緩和医療部専従看護師として、緩和ケアチームの活動を始め、院内や地域の緩和ケア知識・技術向上を目指して活動しています。自分自身が看護を実践するだけではなく、院内の役割モデルになるように、また痛みや不安がある患者への看護をどうしたらよいかと悩んでいる院内の看護師と一緒に考え解決するように関わっていくことを行っています。相談者の悩みをキャッチして解決に導くことに難しさを感じることも多いですが、最近少し自信が持てるようになり、やりがいも感じています。これからも、院内・地域に緩和ケアが広がっていくように努力していきたいと思っております。

戴帽式

戴帽式を終えて

和田 光 49回生

1年前、私が初めて目にした戴帽式は一人ひとりの灯火が想像以上に美しく、そこから照らされた2年生の表情はどこか不安げであった事を覚えている。そして、今年の6月6日に私たちの戴帽式が行われた。2年生となった私たちも病院実習を通し臨床の空気にも触れ、本格的に専門分野が広がる中で、戴帽式を区切りとし今一度、看護師を目指した原点に戻るべきなのではないかと思う。

私は、大学を卒業してから看護師を目指した。年齢を考えると社会に出ていないことの焦燥感はあるものの、それでも自分の歩んできた道の中から出した答えである。そのため、これから目指す専門分野や将来の看護師像は広がり、学ぶことの楽しさやこうして学べることのありがたさを日々感じるのである。私たちには病院実習や国試の事など様々な不安があり、先輩や先生そしてクラスメイトの中で飛び交う話には、決まって「絶対に辛い」などの負のフレーズが聞こえてくる。そんな時、私は決して気持ちが引きずられないように…とばかりに手を握りしめてしまう。自分が思い描くようにはならない事はわかっているし迷いや悩みは尽きないものである。しかし、それでも前へと進むのは、やはり「看護師」と

いう大変な仕事のなかでも必ず光があると信じたいからである。

戴帽式を終えて、後輩達には私たちはどのように映っていたのだろうか、同じように希望と不安の両面が見え隠れしていただろうか。いつの日か、看護師となった自分が歩んだ道を振り返る時が来るだろう。その軌跡は凸凹で不恰好かもしれないが、戴帽式での深い愛情を示している『帽子』のこと、ナイチンゲールより伝えられた人間の愛の『灯火』を思い出したい。ただ夢見ているだけの原点の私ではなく、不安が渦巻くなかでもしっかり立っている今の私がいるからこそ、もう一度頑張ってみようと思えることができるのではないだろうか。諸先輩方から託された「看護の心を大切に引き継ぎ、思いやりを提供してほしい」という人々の期待を胸に自分の気持ちを新たにし、半歩でも前へと進んでいきたい。



前から2列目、左から2番目

近況



看護の原点

小原 孝子 31回生

ご無沙汰しています。31回生小原孝子(旧姓瀬尾)です。卒業して本院の血液内科に3年間勤務したのち、内科外来に異動、その後退職しました。結婚、出産を経て、2年前に訪問看護の道に入り、1年半従事して、今年7月に内科医の主人とクリニックを開業いたしました。

クリニックでは、午前中外来業務、そして午後は訪問診療を行っています。訪問診療の対象となる患者さんは、病状も重い方が多く、夜中の往診も少なくありません。大学病院で

医療に従事するスタッフの方々には、驚かれることも多い世界ではありますが、看護の原点だと感じています。それはあくまで患者さんの目線で、患者さんのホームで、日々の思いを共感しながらわたしたちが「看護させていただいて」いるからだと思います。患者さんと、そのご家族の痛みや苦しみをすこしでも緩和していけるようなかわりをしていきたいと思っています。

そして私は、外来が終わった後、無料相談を担当しています。患者さんご自身だけでなく、そのご家族や、お悩みを抱えてらっしゃる方が対象です。ひとりでも多くの人に、「ひとりではない」と感じていただけたらと思っています。もし周りに不安を抱えていらっしゃる方がいらしたらぜひお知らせください。

勤続31年を迎えて

吉野山（中本）紀枝 16回生

16回生の皆様お元気ですか。東京医大病院16回生は唯一私1人になりましたが、皆様の応援や諸先輩や後輩の皆様を支えられ頑張っ
て働き続けられました。感謝致します。ありがとうございました。

子育ても一段落し、何かできる事はないかなと思っていた矢先、指導係にならないかと声をかけて頂きました。この私に務まるか不安を感じながらも、今までの感謝と恩返し
が少しばかりできるのではと思い引き受け、3年が経ちます。指導係になると同時に泌尿器科外来に異動になりました。初めてのこ
とばかりで不安や戸惑いを感じながらのスタートでしたが、元気で明るい主任さんやスタッフに囲まれ、緊張の心がほぐれてい
きました。心機一転、今まで培った看護観が試される場所だと思い、まず、感染や安全面を考えた環境整備に力を入
れました。また、外来の看護理念を作成し、看護の充実を図りました。具

体的には、癌告知を受けた患者様の気持ちに寄り添い治療選択の意思決定の支援や、継続治療できるように支援しています。それから、泌尿器科特有のバルーンカテーテル管理や自己導尿管管理、スマートケアなどが自宅で不安なく安心して生活できるようにセルフケアの支援に力を入れています。外来で患者様と向き合う時間があることでコミュニケーションをとり自宅での生活内容や不安表出することで、総合相談支援センターと連携して地域医療への橋渡しすることができます。

外来は高齢化や在院日数短縮により、数をこなすだけではなく質が問われる場所に変化しており、医療現場の重要なポジションとなっています。この大切な事を学生に理解してもらえ
るように指導に取り組んでいこうと思っています。

同窓生の皆様、新病院建設に向けての工事が続いています。実習をした旧中央・南病棟の取り壊し工事が始まっています。懐かしき
学び舎や、看護専門学校も50回生を最後になくなりますが思い出を胸に力を合わせて新時代に羽ばたきましょう。



仕事もプライベートも

鈴木 那那 42回生

日頃からお世話になっている先輩からこの原稿を依頼され、何でも自由に書いていいから～と言われて何を書こうか悩むこと数か月…。結局まとまらなかった
ので近況報告したいと思います。

私は現在本院の小児科病棟に勤務しています。小児は大変なことも多いですが、大好きな子ども達に癒されながら楽しく働いて
います。入職した当時は自分の不甲斐なさに何度も涙を流し、私は絶対にこの仕事に向いてないと思っていました。しかし毎日バタバタと

過ごしているうちに気付いたら中堅といわれる年になり、今ではリーダー業務という大事な仕事も任されるようになりました。恐縮で
す…。さすがに業務には慣れましたが、いまだに初めて知ることも多く、小児看護は本当に奥が深いなぁと日々実感しています。働い
ていくなかで、自分がやりたいことも少しずつ明確になってきました。休みの日には岩盤浴に行ったり、これまた大好きな某“夢と魔法の王国”
に行ったりリフレッシュしています。休みの日はたくさん遊んで、遊んだ分お仕事もしっかり頑張るように心がけています。

自分がこの仕事に向いているのかはまだわかりませんが、これからも仕事もプライベートも頑張っ
て毎日楽しく過ごしていきたいと思っています。

15回生の同窓会

木島（武田）澪 15回生

11月3日 京王プラザホテルにてクラス会が行われました。当日は足立先生、大久保（天野）先生、渡辺（外久保）先生にも出席して
いただきました。毎回クラス会に出席すると、感じるのは、皆それぞれ頑張っていて、すごいなあと、私も負けないように生きてい
こうと思ひ、気持ちが引き締まります。5年後10年後とどのように皆さんと自分が変わっていくか楽しみにしています。



東医祭

「東医祭を終えて」

東医祭実行委員長
医学科4年 岩崎 源

平成25年度「東医祭」が、去る11月2日（土）～11月3日（日）に新宿御苑キャンパスにて開催されました。

東京医科大学は新校舎設立など創立100周年に向けて大きく変わろうとしています。そこで今年「チャレンジ」というテーマを掲げ、今までにない新しい東医祭を目指し活動しました。僕たち東医祭実行委員が考えた新しい東医祭とは、在学生の参加できるイベントがいつでもやっている、外部の人が来ても楽しめ・学べるということでした。それを実現するために、今年から東医祭ホームページの開設、看護専門学校同窓会によるバザー、学生による救急医療講座、各部活の料理コンテストなど新たなことにチャレンジしました。

その結果、在校生・外部の参加者も増え、盛り上がった東医祭を開くことができました。

実行委員長として1年間活動してきましたが、その中には楽しいことだけでなく頭を悩ませたことも多くありました。しかし東医祭が終わった今、全力で新しいことに挑戦して本当に良かったと思っています。これからも医療関係の学生としてチャレンジ精神を忘れずに行動し、学んでいきたいです。

最後に、新しいことにチャレンジするのはとても体力のいることだと思います。この東医祭も自分一人の力では決して作りあげられませんでした。本年度の東医祭を無事終えることができたのは、実行委員の仲間はもちろんですが大学や同窓会他、多くの方に支えられていたからだと思います。来年度以降もより充実した東医祭になるように努めて参りますので、皆様のより一層のご支援、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



オープンキャンパス



前夜祭



右：白井理事長・学長
左：岩崎 源

懐かしいあの店

弁けいと清林堂

学生時代、寮生活の時もお世話になり看護師になってからも食事やおやつに日々通っていた「清林堂」。学生時代には自分へのご褒美で食事に行き、看護師になってからは夜勤のお弁当でお世話になった「弁けい」。今も健在です。

それぞれのおばちゃん達はあのころと変わらずテキパキ仕事をしています。

みなさんもたまには寄ってみてください。

(内田 幸子)



弁けい



清林堂

東医祭 久しぶりのバザー

副会長 守屋 みゆき 17回生

最後の『看学バザー』は何時だったかな、確か私が就職したばかりの頃は盛んだったように思う。平成25年11月2・3日の2日間、恒例の東医祭が開催された。今年度、1看護学校同窓会のアピール、2同窓生の親睦を深める、3同窓会運営資金調達を目的に、看学同窓会と看護専門学校、医学部東医祭実行委員、医学部看護学科と連携を取り、『看学同窓会バザー』出店に至ることができた。

1日目の午後は、冷たい雨が降り東医祭ならではのおでんやちゃんごどん、焼きそばの温もりが身に滲みた。2日目は、球技大会を背にバザー開催。

昨日の雨に空気が澄んで気持ちの良い一日となった。お客様は、近隣の方や子供を連れてご家族、高校生、医学生、大学構内の諸先生方他の皆様でした。最初に売れたのは、なんと今時クラシック（例、ダイヤモンドゲーム他）な皆で囲めるゲーム。次に、クリスマスリース・キーホルダー、食器、日用品、子供向けの雑貨、衣類等々であった。当日は看学同窓生、医学部看護学科の学生ボランティアの参加もあり今年度の東医祭スローガンである“チャレンジ”と“同窓生の親睦を深める”という同窓会の目的に合致して参加することができ、思い出深い貴重な時間を過ごした。

御多用のところバザー出店に御協力頂きました皆様、ありがとうございます。紙面をお借りして御礼申し上げます。

はじめての東医祭

看護学科 1年 ^{ぎょうじゃ} 行舎 沙椰子

今回、初めて東医祭のお手伝いをさせていただき、とても良い経験をしました。当日は雨も降り、とても寒い日でしたが、入場口からすぐのところにあつた為、多くのお客様が訪れてくださいました。ご高齢の方がいらっしゃった時、洋服や帽子に興味をもたれ、似合うかしら、と鏡にとらめっこをしながら、最終的に「軽いのに暖かくていいわねえ」と笑顔でおっしゃってください、お買い上げいただけました。受験生の方もお母様と一緒に来校していただき、アクセサリ掛けをお買い

上げいただきました。お母様がお皿などの商品をご覧になり、悩まれていた際に、お嬢様が「お家に同じようなものがあるでしょ」と一喝される姿は、親子の立場が逆転しているようで、お嬢様はしっかりとお育ちになったのだなあ、と微笑ましかったです。

幅広い年齢の方にお立ち寄りいただき、いつもはあまり接することのない年齢の方とお話をしては、知恵をいただいたり、激励をいただいたりと、1日はとても早かったです。たくさんの笑顔を見て、ひとの笑顔の素敵さを改めて感じました。このような機会を与えていただいたことに感謝し、来年も可能なら参加したいと感じました。



右 小川参事



湯澤 守屋 行舎 有本 難波 大島

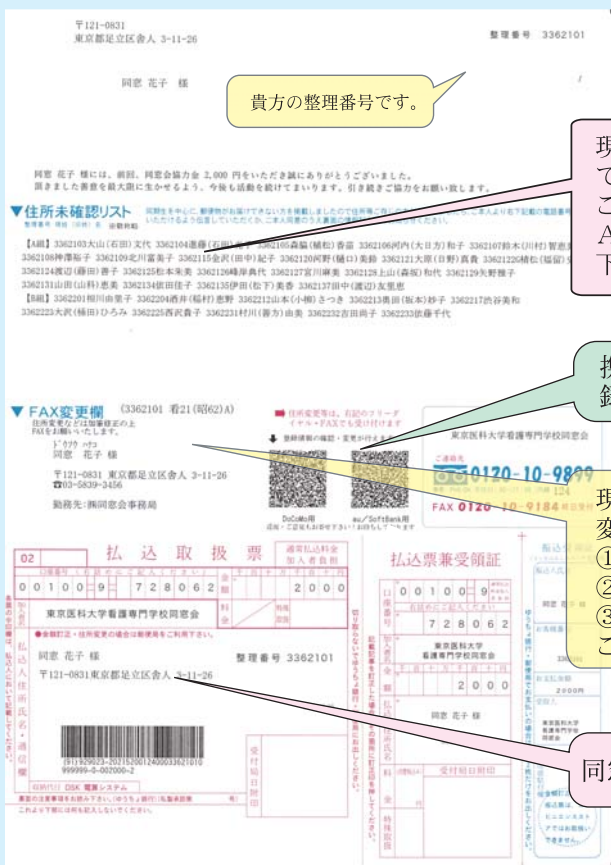
ユニフォーム



今の本院のユニフォームです。様々なバリエーションがあります。いかがですか？



同封物の見方



貴方の整理番号です。

現在、住所が判らず会報誌をお届けできない方々です。ご存知の方は、フリーダイヤルまたは、フリーFAXまでご本人よりご連絡いただけるようお伝え下さい。

携帯電話専用のQRコードです。あなたの登録情報の確認・変更ができます。

現在、同窓会でお預かりしている貴方の情報です。変更のある方はいずれかをご利用ください。
①フリーダイヤル
②フリーFAX
③QRコード（携帯電話）
ご協力お願いします。

同窓会協力金の振込用紙です。ご協力お願いします。

∫ ∞ 編集後記 ∫ ∞
東京オリンピック決定！！そんな明るいニュースが飛び込んできた年、看護専門学校は50周年を迎えました。記念式典・祝賀会では、多くの懐かしい先輩・先生方にお会いでき嬉しい年となりました。50周年記念式典・祝賀会の様子とともに、多くの同窓生の心に“お・も・て・な・し”できれば幸いです。(N. 0)

・同窓会協力金募集・
1口 2,000円のご協力をお願いします
同窓会の運営費は毎年卒業時に終身会費として頂くことによって賄われていますが、年々会員は増大し3,700人を超えています。会報費、通信費などの運営費用の捻出に、苦慮しているのが現状です。是非とも協力金をお願いいたします。

住所変更は2つの方法で

個人情報保護に配慮し、プライバシーマーク認証業者の株式会社同窓会事務局へ会員情報の管理、会報発行を委託しました。それに伴い、同窓会事務局専用の受付電話・FAXが開設されています。住所が変わられた方は、下記の方法でお知らせ下さい。

フリーダイヤル 0120-10-9899 内線124番 平日 10:00～17:00
フリーFAX 0120-10-9184 終日受付

48回生の同窓会入会を
歓迎いたします。